

911.3
又
智

泥錄集

智



滑稽銘錄集卷之四

尾陽沙門 馬州 撰

近江

大津

流雪れそらりさのくへ 正秀

芦の穂りぬ根のそら風れ声 尚白

中此くふる士と笑るる子たし 松毳

日ようけて世界は草花のちのち

白鷗のれは毛よ水とまよふり 松尾

尺あるはつる雲や山に海乃所

笠照る海流比立危や天子のむ 文素

砂織信と二あの日や古ぶら

しふにせれ中あふふ筆れおせふ

古筆いざうけつるもくは情あ 心遊

あうらふく敷海釣るはれ涼れ

ほのちち栗とともめは溪の月

肩つゝあけして志は海柳うね 之水

婦でさう一妹どもちう一はの月

遠くわや細きはれ時細り時あ

せらうとど海日とともは雲の行 思向

ぬくも免て程い筆九は念う那

ハナハ覚り

中へふ家其耳通し一百千を 路吟

おもしろくはつる色の山や、雲乃朝

鶯ののれくわなぬれは雲あ 鶴里

まは白む比呂のてはあつた

暮の如く我らもはるの膝 吳竹

夕の霞や暮れゆくは海りも

た露の如く書人の筆や青はる 可明

水鳥の如く声やけりかたも

水鳥の如く声やけりかたの中

お風の如くまはるはつたの如

りも火の如く寒の梅はむ 京 宰院

連綿として凡雑の傳とお傳りあり
松琵琶の如くありと

接するは春の梅はむ 居士

待たぬまはるはるの日の如く 松琵琶

留まらぬ大通丸を 可明

もはるはるあふむ 之水

水鳥の如く声やけりかた 鶴里

人死の如く 心遊

上りの下 文素

舟の如く 執筆

羽衣乃 跡り 皇志 此 初行 此
行者と 活し 頂 皇志 此

くさくさ 此 皇志 此 皇志 此

さくさく 此 皇志 此 皇志 此

かき 此 皇志 此 皇志 此

ふさ 此 皇志 此 皇志 此

み 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

あ 此 皇志 此 皇志 此

二日月此及も直まてみ六日
 席くく芳よ及の片くらん
 ましきひよ里の抱癒い書は等
 世おあてくく風三のり
 煉掃きくふくく宮れ浄垂し
 味乃本多下とゆく雲
 状お成中に持あてあけり
 午付くあふぬ鶏乃あふ
 とらふくは道りく廣くふ記送
 志くくら繩乃くちくあふ
 里 素 抱 肉 氷 昆 素 士 里 抱

陸奥

乗折

竹恨くろり血研く梅乃志
 伊辨孫れ洋や海田のあちあま
 名月の赤赤くくや極さうし
 狂判とのがく安く冬この月
 うら若若くくく居機羅や梅の心
 学おれ扱若くくく初まり
 控うくくくや本の書見れる上り

攬翠軒 馬耳

梁川 野渡

石と湯よまれば巡る如踏牛
 しゆくさき類よ布目如蚊の肉
 居栗如竹くらう角くらう乃雷
 葉と法儀のなよおのうし
 神のつゆも水鏡をこし白如幣
 寒や刺れ小兵よまぐしとひりり
 自陸を流のうらまはひと柳並
 姑乃中らにほくくぬぐとぬ
 る麻で世にらぬまのいとひ弁

同 志香

屋尻切あ奴と怖く水鶏が
 ち田の流乳よおまの菌のふ
 ともおれ膝とくらとゆ一葉くれ
 志の身れ会佛ハ赤と懸柄の南
 行りたあよほま乃少ねとぬ
 胡^{アサツキ}魚よまらんとくを難の席
 若くして系糸のまらうら乃れ
 何んかのまおとぬたのらり
 しゆくさき類よ布目如蚊の肉

同 泉石

花もやあまのけりて指の良 葉折 志全

空の雲とゆとほれまの月

牛の尻指ゆらぐも宿れ煙

雪しり笠照こも栞も伊丹酒

吉柳一かこころゆらぐれ枝亂 同 乙白

猿猴も術よあぐりも書のか

以者北村宜也凡も海乃程氣

うも城の書も書か山一く色

海の舟月や役のり者北は栞 同 克己

新ふ交まうく玉所の相も初か子

あさうかたも名も田部のかつも付

大勢の勝やぐらもあ室乃梅

く地のもほまはかたはふけ干式 同 穰山郎 衣吹

お現れ神代とくも中望の鳥身

爺 テ 少と法伴世界も丹波粟

細りくも井のまももるぬ鶴鶴

吹うる風もは懸るれな柳 保原 唯者

涼風とまももる海もも如使つ

姉さゆのぬしにゆかれ人な保原唯有

歎垢とくらむとて白く雪伴

善悪一くみみし山はよのそ月付同易耕

豆ふかやうくぬ性招れさるり

いと縁れふふらみさるし水のむ

枇杷のそ眠り枇杷花はより

ふゆれたすいには因がよし和猫のそ同可川

花堂よりしり及くむと能くそら

ふらぶよら比和土可れそ珠は花

水仙や九十と濟と月ハハ

玉のまももや木和ぐらぬそら掛田無心

豆れ星見出とくう田の田植うぬ

あふ風は行どおさるらそ腐う系

鬼とく月を平ら千ふれ夫えん

之界のお和サも庵うら門ふら同木端

湯杖と追ふムクをわんけら

紫本のくや月ハに角よあそねむ

千一度はくそり教也乃を瓶

墨の束れは 一と云ふも 如土筆 掛田 卜陰

雪のふりや ちかきふり にはは

残りれ 汗 干也 夜の 過ぎぬ

空の 雲 能く ぬく ちかき ぬ

麻入の ちかき ぬく ちかき ぬ 同 桃村

影 衣と ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

湯あぐら ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

雪の ちかき ぬく ぬく ぬく ぬ

一點の ちかき ぬく ぬく ぬく ぬ 桃村父亡人 苔雪

一の 雪の ぬく ぬく ぬく ぬ 掛田 海雪

木 陰と ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

鳥の ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ 同 喜的

口者 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

古刀 ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

ちかき ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ

通眼の ぬく ぬく ぬく ぬく ぬ 同 喜山

川崎の園の空の舟の愛の如 掛田 喜山

瓦のやまぐさのたれまの

おむねのたれまのたれまの

まぬのやまのたれまのたれまの 瀬上 等母

権伴のやまのたれまのたれまの

権助のやまのたれまのたれまの

くさのたれまのたれまのたれまの

四川のたれまのたれまのたれまの 同 喜山

十のたれまのたれまのたれまの

千のたれまのたれまのたれまの

百のたれまのたれまのたれまの

十のたれまのたれまのたれまの 同 志水

十のたれまのたれまのたれまの

十のたれまのたれまのたれまの

十のたれまのたれまのたれまの

十のたれまのたれまのたれまの 柔折 軒鶴

十のたれまのたれまのたれまの

十のたれまのたれまのたれまの 同 豆苗

為りやうの月影 障子の影に花 葉折 五音

むつと空の可素の毛 同 吟絲

砂粒水の泥よう 同

人質の衣 同 野梅

花よりふれ風の影 同

景常乃むり水 同 式笑

澄みゆく九十九 同

丈 平田 素尺

留子 同

ふた 葉折 湖柳

初雪 同不城兄文 不碩

く 同不城甥文 素弦

持 同不城舅文 城之

け 葉折 孤云

ふ 同 徇齋

た 同馬耳男 如風

か 同馬耳二男 古道

聖 同馬耳三女 か

ニツヨリノ事一ノ事ニシテハ 柳ノ汁 桑折 布川

執心ノ角ヤいづくハ 歸里ニテ 保原 可貞

建初ノ日梅もろ庵一ノ事ハ 柳 同 桃丘

居ルニシテハ 西ノ事ニシテハ 男ノ事 同 不流

這ハヤハ 柳ノ事もロロト 男ノ事 同古入 乙十

此ノ事一ノ事 數ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 河水

東ノ事ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 桃之

植ルニシテハ 男ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 其滴

此ノ事一ノ事 柳ノ事ニシテハ 柳ノ事 瀬上 吐雲

火ノ事ハ 油ノ事ニシテハ 水ノ事 同 双流

柳ノ事ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 栢舟

柳ノ事ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 松林

柳ノ事ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 湜社

血ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 射石

建初ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 古鑑

加賀ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 器水

運海ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 運海

柳ノ事ノ事ニシテハ 柳ノ事 同 海尺

涅槃舎も十木成子を一歩は葉折露耕夫不城

根がわくぐいふ種氣の中はひん

振ふまよ笑ひ負じおねあしれ

おら乃うくや朝口の窓がぐらあ

よこの海鏡ついでしゆくちんのも
とよとみくしてはゆとま

ふくひつうと古くうぐらえてるるは

福島

ふくひのぬこますむらわおぼら月 故尤

雷解や下結ぐてとも何と道も

粒物と新くふあくらや中ぬの塔

徳りし故うりくまふも百公のむ

はうまあはるるや尺てちる蚊食のん

桐のうたうあむるまきくと落れ声

法おあすいよ編や割る面風

陸地爰れまよも侍てく一葉ふれ

燈塔く乃おたかろる葉摘み

九十九本通るもりもやちのく菊

藤糸一の端を割るに何れ
後色の一七りやうなり

附合

州を北掃除奇案の風涼

美いものゝ世帯一折也

中一が斤よけカキ折れまじりお 故尤

折れし一折れまじり

折れし一折れまじり

折れし一折れまじり

此等のは法り何ん糖と餅

以園ののりいれといふ

長ゆよのりいれといふ

折れし一折れまじり

園子の折れまじり

やまの折れまじり

折れし一折れまじり

折れし一折れまじり

折れし一折れまじり

おもしろいおもしろいおもしろい

小階とよみおもしろいおもしろい

女中お供をいらいらと云ふ哉 故尤

蓋はゆきまじりまじりと云ふやまの梅 六人 傾枝

まじりまじりまじりの梅もいづれ月 一止

擬てちかきおもしろいおもしろいや梅涼し 既白

結句の風もあつれと梅 一と云 如竹

梅の香気は射別けにわさざれ

一と云ふおもしろいおもしろい梅のむ 東門 求古

本書おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい 其鶴

おもしろいおもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろいおもしろい

泥もよきおもしろいおもしろい 雲水 何似

おもしろいおもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろいおもしろい

中世の如くはなまがらも百合の心 何似
江場や藤まきしんれ筆は出
六十棒 枯枝まきしんれ 柳の如

越中

石動

仙人も歌言まじり夜のくれ 壺南軒 吏酉
茶のむれいりや境乃 田 鼓石

水段と海へかして 刃ふぬき 交琴

盗人の心 民よけ けり 瓜の 蔓 明矩

形 社のうし びんおし 水 鶴 くれ 加角

望まふや ちり 柳 けり 桃里

柳のむれ ちり 文の 書 又 柳 けり 旭候

加賀

津幡

傾城 ちせのしほをよきよら 技紅

但利 遊程の素衣を月かして

色月や雪降り 抱ふ袖乃敷

肌わづらぬ 素衣を雨ふる 淋しそ

涼しそ 如きかたのみ 雨のし

雪ふる 如きかたのみ 雨のし 里楓

松雨

美濃

釜戸

朔朔 天くくく ぐに 柿 一 二 旬 松軒

鳥の巣や 塵よま ぐに 穴守

ふと こと 笑ふ ぬ 連 一 二 旬

娘 さま あり け け け け け け け

お ぐ ち け け け け け け け

附合

い け け け け け け け 鼓

とちりくおくせふ果報

産陽石と此種粒の國の七 松野

さゆくよき声由白うけりる

郵政大臣の免よき聲を

たうおちよ色の由てつたい

紅葉思ふくつりや中ように 里林

善心より約よきくは田植くれ 三行

美歌

月吉

若餅の師走のきりくわたり 和水
夕立や雷盆うぶれ市屋

附合

末の代母殿をまてり 和歌
瓶賣り 鳴きも非いれ 和歌
位牌 ともたうぬ真加のし 和水

常れ初音り 和歌
細湫 梅誌

附合

ちうりや世居の耳のしるし

とくさくさいやうでもさうがたふ限

かんとあつるこゝ海をも乃一生 栞誌

直路の空の如く一里や夏の月 深澤 仙龍

初、富やさきそよま垣に振か織

附合

吉日と撰んくおね入る

ちうりや世居の耳のしるし

まふら水う浸りて鏡面の輝 仙龍

鬼のまはきして花のくさうの 細湫 湖丈

日吉

梅のうしろの囂とやんきり 南枝

附合

三笠の山に登りて明聴

其處に鬼の窟ありて

洪祖の御宇に於て今も此門にありて

早乙女を名づくる女は此の夜 歩山

附合

文彦と志守とを以て

海宮大なるに在りて

空恨と内恨ありて大なるありて

夫々の一と云ふるは梅のそと 寸芝

コト知るといふは梅のそと 柯栢

附合

新之助の威徳を以て

是乃たふまといふは

穴うしと云ふは此の打栢

一と夜外にも見ふに河造り
跡は少く流台に柳一と年一 春耳

くさくさ上氣さゆきや室の梅 完美
香中香は志うれば目もあつ練鼓の

附合

足引よぶ鳥の尾は流さく
白いよき多き 夏摺
折若かり知りて今おまをさぐー 完美

大藤月産毛もこの柳は素子
仇弾きすはや希死約は計を
福書れ火蓋をたるとや今りの也

附合

程のちうぶをばはらふと数うを
八通のまはせし煙はきき一は
大佛とせよおとらへておんごう 素子
おん風名はあふまははははは
懐の因りてはるる者

河之油乃くくるる中を天井 きて

路に下結の垢子合で結んづら 其声

附合

水きよみ成ても科よるるる

寸君佛一とるるきり

達もたうに渡天海して引成り 其声

初極いまごお系金のねぐら 鷲遊

古来より握りて寺の牡丹くれ

る有やふれりるるるる

念佛の沙汰といやが執りる

無常と配りたるでやうの附由

附合

今神こころを押しぬるる

至成りたるるるるる

乃くくくくくくくくくくく

川く水はくらくらりくはくはく田張荒井司泉

附合

あふ日の影をいぬ色よ中里の影
あま鞋の影をいぬ影よ中里の影
大おろすまぶ影をいぬ影よ中里の影

風中他少影をいぬ影よ中里の影 梅至

附合

一くくみーてまふまふの風

あふ影をいぬ影よ中里の影 切草鞋

別あ影をいぬ影よ中里の影 梅至

痛とけてはあ影をいぬ影よ中里の影 左白

附合

水い日ととあ影の影よ中里の影

あ影をいぬ影よ中里の影

あ影をいぬ影よ中里の影 左白

何しゆもこれ梅や尾とちり積くと振 中合
 礎をふらふ中ふらふや庭は清くも
 後の結れ安くこゝろを家一草か
 山法師おろくくおとや大根引

附合

三ふよ梅のつらさうして ヒキツクシ 長髪抱
 志はもろくも ヒキツクシ 山家骨の海じ
 ふ月より花散はるを擲うけて 中合

烟依り新己屋とつ玉作はれ 居林
 春を去るは ヒキツクシ おろくやふ月雨
 何れか ヒキツクシ 花散はるを擲うけて
 献 ヒキツクシ 去りて ヒキツクシ 死 ヒキツクシ 去りて ヒキツクシ 海 ヒキツクシ 風 ヒキツクシ

多 ヒキツクシ 女上戸や ヒキツクシ 水の ヒキツクシ くれ 蘭風

附合

臨 ヒキツクシ 中 ヒキツクシ 結 ヒキツクシ 中 ヒキツクシ 結 ヒキツクシ 中 ヒキツクシ 結 ヒキツクシ
 結 ヒキツクシ 中 ヒキツクシ 結 ヒキツクシ 中 ヒキツクシ 結 ヒキツクシ 中 ヒキツクシ 結 ヒキツクシ

「度」も角がうろくも世恨も 菘凡

学のとくや餌猪のれろく見 文園

吟てくく指いりもくあし菊のむ

胸よくみ紙全てうあくあやうう

麦熟たきや刈りられいしゆを 雅休

孫のまきやや碓も斤の業

よん中れ垣や流も乃川じゆい 燕市

隣洞れ中と悲もあや中一の事

继母の知りやあやあまのむ 松甫

けくくれ尾と年幣^ヅや投たきく 故菱

出どは乃海も涼しや大の系院 春艸

学くおまき度あ初者くあ 舟

おしりあさくや一会ふ百生

ふくくれ歯黒いけしあて成

よの下あまき乾うあんこを

涼しとれ果るく雲井や既無如

風口乃蓋成なる一葉のれ
 片勝りしと應じし松の那
 一ふれ清梅のしつる月の
 近きこのや田中れきんか
 妹がうらまゝどりけりや川さる
 ときし那とらしる松松の冬牡丹

附合

敷の廣さに出乃と由く
 獨居れれとくくくく

梅もたふふとふ乃り山
 舟

世の梅の徳くあはる家山
 六脈ありしむさふ一室の梅
 隆の事公志ししく梅の舟
 舟

中風端の風よとく山橋
 舟入しむさふとく梅
 舟
 舟

四隅館

万路

空佛より中も娘心の牡丹哉 万法
 多うとては我力も知しぬ一葉哉
 一天乃中も娘心月おま中う始
 汗が移り一葉んと一葉んまの梅
 友のゆかり氣をやかまそめかゝる

附合

たゞこの火さくまゆらぬ城今
 づよ月よ何れも世ごとく散らす
 春を流しと流おと浦に砂系 万法

咲陸の心をさすく流る一葉ふれ 桐矢
 君よりり流るそらとそめ水仙花竹司母 菅詠
 子と思ふ園もも向を懐う那竹司娘 花香
 時わあうり一葉がうでう流柳うを 魯陽
 中あーとらまを流るわ流千鳥
 流身の流る一葉も流るあま 流覽
 大がららのとら流るさー 中の華



整へて写し置るは地へ如 云之堂 竹司

中りり録土とらる何田想
能うするものどくや粽ゆい
る山は膏肉れうは若さうれ
葉ふらうりれ事と部よは地
胡露り穴とぬり一筆
まの敷れ借敷と吹や水他死
味喰へりり拍子りり

附合

一冊の念珠は花は徳切
とづりぬり花乃白鵬
登子キ兼れ地とくく月の影 竹司

百七の牛よ火態と軍
おろくのゆれ舟れ船半
味喰抑りよりて事世の苦後
山は写て志きれ是は地師

下總

相馬郡

幻降庵

傳とてどあはうふおとほ書かた成 塵人
 寺よれと又仕格くもたれり
 佛も栞よもくくもぬりきり
 敷きぬくはくもあも念佛
 吉栞乃流とのむぬや小雅人 竹友
 吸ありまうく何れも柳うぬ
 苗らぬや振く髪のかん夢心 一甫

南天れくも風吹ふ小庭うれ 馬風

吾月の照りや一寸一千里

命のたれとるを私月あつて 吐雲

香煮乃瑞とあつて影也四十雀

親くがおふくくくやまぬく 不木

るりくはまよひのあつた

一も陰か栞くもくわさく細 一口

取のひのあつたあつた 栞和

あつたあつたあつたあつた

之子の江粉おろしや山梅 爲舟

絶泊乃針目くしとまのり系 揮旭

素筆此おまをるまきり 素耕

空女角よりや一係りどり梅 旭映

何く昔をよしとまをる尾巻くれ 理中

百韻首尾

塵人

占粉此まきりしもあまの月

おちりりまきりしは山く 不木

振喚く千疊まきり梅の香ふ 馬風

程乃穴とまきりしは鈴舎 竹友

せしみのまきりしはおまきり 吐雲

赤丸此おまきりのあままきり 柳和

質の基と猪よりまきりしはまきり 揮旭

つしつしつしつしつしつしつしつ 爲舟

追しつしつしつしつしつしつしつ 木

おしつしつしつしつしつしつしつ 人

生賛の社壇乃しつしつしつしつ 友

泣くしつしつしつしつしつしつしつ 風

二月廿二日 和
 舟雲
 船
 地

常陸

筑波郡 河内郡

幸下
 四求齋
 士
 和
 紀
 郭

戦介樓
 松丸
 梅の
 玉塔
 白扇
 風車
 水海棠

梅仙の例よがねぬや庭のこぬ
あも乃奇ようらむや鶴中

下らたうらぬもこむきん何押成
巖子

血の池よまじりぬらり動機心死

此もあつていひぬらりこころあぢ
以交

蚊の音は似て舞れ逆りりりり
葵刑

あつたつたれたそぬやまのさつたつた

こま振佛一うららりぬらりりり
如山

あつたれ志うららりぬらり初るれ
麟睡

きりりりりぬらりぬらりぬらり
吞龍

川柳の禪よとがらぬらりぬらり
窓月

波よ揺りけて涼さを法刃寺
羊角

どろろどろどろぐれりりりり角豆
梅旭

活こあつりりりりぬらりぬらり
紫滴

いりりりりりりりりりりりりりり
雫川

窓あつたつたつたつたつたつたつた
柳泉

あつたつたつたつたつたつたつたつた
峯錦

あつたつたつたつたつたつたつたつた
湖帆

百韻首尾

塵人

竹の子やる陸源氏此一連尻

吾世ふ乃り後掃ふ晴隠 松丸

うらむ初ふえ令実うら形と子 白扇

白慢の繁花揺る吹うけり 粟川

来期は空ろ方うらひれ香惠袋 羊角

争て追やふ月のけしき 葵州

岩りやう末の世とこかじんきり 紫滴

此言葉やが要や菊とらぬ 幸卜

神多り境もあ守殿もれし 丸

やともしのむく酒乃怪徒 人

鶴の鳴く道と味強と浪さゆ 川

怪い成布れじごんせり 扇

然経と移るふ斤のまほく用 州

川と會てて立びり山 角

園山とめ位定うん月と海 卜

難乃る左割も殿ふゆと 滴

歌仙首尾

塵人

書く消と書け茶思わすも

いすぶおろき急福山の月 梅旭

鶴啼く群い茶茶切して 巖子

三巻の紙いと忍ぶまじ也 梅仙

新り世話のせ乃山を七与去 麟睡

空よりまき海華此一ツ家 如山

友侶お摺つけさし川も何紫 旭

あやけりいおぐらうが肝文 人

時多今うくつ首伸多 仙

とらやお茶の終れ多風 子

おと書志よま茶のたも甲く池 山

しらりの山と笑ふく多 睡

十句表

通拜の心希く中も書ま湯成 塵人

雪乃園は謎名根え 柳泉

二心ゆのそよみぬれ約多 吞龍

思ひ切くすとすもく西多 峯錦

るるうほろくく月お輝るの秋 亀友

あまのふき火のたけいね 人

梳ふらもこせいらく懸のあま 泉

由良乃漆のぬれはた合 龍

いけのぬ雑考りぬらん在雑 錦

いさる柳れすきお風 友



